

熊本県緑川水系におけるボウズハゼ *Sicyopterus japonicus* (Tanaka, 1909) の記録

林田 創¹⁾, 藤井 法行^{1, 2)}

¹⁾くまもと淡水魚類研究所, ²⁾熊本野生生物研究会

A Record of the Parrot goby, *Sicyopterus japonicus* in the Midori River system, Kumamoto Prefecture

Hajime Hayashida¹⁾, Noriyuki Fujii^{1, 2)}

¹⁾Kumamoto Freshwater Fish Institute, ²⁾Kumamoto Wildlife Society

はじめに

ボウズハゼ *Sicyopterus japonicus* (Tanaka, 1909) は、スズキ目ハゼ科の両側回遊魚である。分布域は黒潮流域の台湾から琉球列島、九州から福島までの太平洋岸であり、本亜科のなかで唯一温帯域にも生息する（飯田 2016）。

熊本県におけるボウズハゼの確認例は、天草や県南で報告があるものの、有明海に面して黒潮の影響を受けにくいと考えられる県央での報告は稀である（<https://kumamoto-city-museum.jp/168/266> 2020.07.23 確認, <http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/2020.07.23> 確認）。今回、県央の緑川水系加勢川上流にて本種を目撃したため報告する。

熊本県におけるボウズハゼの分布については、熊本博物館の清水稔氏、福岡県保健環境研究所の中島淳氏より情報提供いただいた。厚くお礼申し上げる。

結 果

ボウズハゼ

確認地：熊本県熊本市中央区水前寺成趣園付近の加勢川（図1）

確認日：2018年7月15日, 2020年8月2日

確認者：林田 創

2018年7月15日、緑川水系加勢川の上流で魚類の潜水観察中に、ボウズハゼ1個体を目撃した。確認地は湧水河川のため水中で10 m以上の見通しがあり、川底に発見した淡黄色の魚体を見失わないように慎重に接近し、ボウズハゼが石間に隠れたところを撮影した（図2）。

それから2年後の2020年8月2日に、上記地点より70

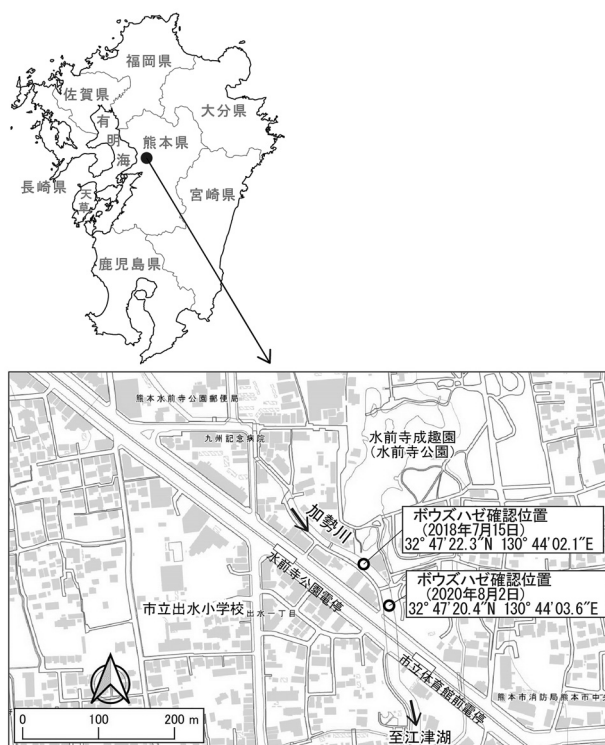


図1 加勢川におけるボウズハゼの確認位置
注：地理院タイルに地形地物名称を追記して掲載

mほど下流で、同様にボウズハゼ1個体を目撃し撮影した（図3）。

どちらの目撃地点も流速0.5 m/秒程度の平瀬で、河床材料は様々な大きさの石であった。石の表面にはコケ類や藻類が付着しており、ボウズハゼと同様に付着藻類を餌とするアユが多数見られた。

回遊魚であるボウズハゼは、河川に遡上した後は上流から中流に定着し、そこで餌の付着藻類を得るために縄張り行動を示すことが知られている（奥田ほか 1996）。



図2 加勢川で撮影したボウズハゼ（2018年7月15日）



図3 加勢川で撮影したボウズハゼ（2020年8月2日）

また、本種の寿命は3～4年程度と考えられている（細谷ほか 2019）。これらのことから、加勢川上流で2018年、2020年に目撃したボウズハゼは、同一個体である可能性も否定できない。

なお、緑川水系では、1978年5月23日に当時の下益城郡富合町上杉堰下（現熊本市）でボウズハゼが採集されており（環境庁 1982）、その標本は熊本博物館に保存されている（登録番号05-001077）。

引用文献

- 飯田 碧. 2016. ボウズハゼの生態. 海洋と生物38 (4). 370-378.
- 奥田重俊・柴田敏隆・島谷幸弘・水野信彦・八島 稔・山岸 哲. 1996. ボウズハゼ. 川の生物図典. 410-411. 山海堂, 東京.
- 細谷和海・内山りゅう. 2019. ボウズハゼ. 山溪ハンディ図鑑15増補改訂日本の淡水魚. 426-427. 山と溪谷社, 東京.
- 環境庁編. 1982. 日本の重要な淡水魚類（南九州・沖縄版）. 第2回自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査）動物分布調査（淡水魚類）報告書. 13-14, 53.

受付日：2020年8月2日 受理日：2020年10月29日

連絡先：林田 創

〒813-0043 福岡県福岡市東区名島2-22-30

TEL 080-5211-7339